

令和6年度 青森県庁インターンシップレポート

1 私が青森県庁インターンシップに参加したきっかけ

私が今回青森県庁のインターンシップに参加させていただいたきっかけは、パンフレットなどの文面では知ることのできない実際の業務体験や現場の生の声を直接聞くことができ、公務員という仕事のリアルを知ることができると思ったからです。

私自身、高校在学当時から将来的に公務員として働きたいというぼんやりとした志だけは持っていましたが、公務員という仕事に対して具体的なイメージができていないままでした。

そんな中、大学内で青森県庁のインターンシップのポスターを見つけ、すぐに大学に申込書を送りました。

2 私が体験した青森県庁の業務内容

インターンシップ初日、私はまず総務部の総務文書課という部署に配属となりました。ここでは二日間を通して、県庁に新規で採用された方が最初に受ける研修のうち、法制執務研修という県の条例や規則が改正される際に行われる改め文の演習や、県民の方々から開示請求があった際に開示する行政文書の内容が、条例によって定められている不開示情報に該当しているかを審査するという業務を体験させていただきました。

三日目以降は人事課の配属となり、初日は県が取り組む職員の育児休業取得率増加について教えていただき、これからどのような取り組みを行っていくべきか、自分の考えをまとめました。また、当日ちょうど行われていた県の常任委員会を見学させていただき、実際に県議会議員の方と県執行部との質疑応答を間近で傍聴させていただきました。

四日目から最終日の五日目にかけては、来年以降の青森県庁インターンシップをよりよくしていくため、実際に参加したインターンシップ生の声を届けるということを目標に、県のホームページに掲載するためのインターンシップレポートの作成に取り組みました。

その際、私が体験したことだけではなく他のインターンシップ生の方が体験したこともお伝えできればより具体的なイメージができるのではないかとということで、他の部署で業務体験をしているインターンシップ生の方に直接取材させていただき、お聞きした内容も含めたレポートを作成しました。

最後に、業務体験の締めくくりとして、作成したレポートを実際の業務でも行っているようにグループのマネージャーの方に報告しました。

私が体験した個人カリキュラム以外にも、全体カリキュラムでは青森県の現状と課題について実際のデータを示していただきながらこれからの青森県について考え、その後架空の町が抱える課題に関して他のインターンシップ生の方々とグループを組みそれぞれが考えた意見を出し合い、まとめたうえで発表するワークショップも行われました。

3 他のインターンシップ生への直接取材

<取材先①>教育委員会 文化財保護課 県内大学生

- ・インターンシップに参加したきっかけ
青森県庁を第一志望に考えており県庁の仕事に興味があったから
- ・実際に体験した業務内容
県の銃砲刀剣類審査会という年四回しか行われていない会に参加し、実際に本物の刀剣を間近で見た。登録された銃砲刀剣類を所持している方を管理する銃砲刀剣類台帳に関する業務を行った。特別天然記念物に指定されているカモシカの生態や死因などを文化庁に報告する文書を実際にエクセルに打ち込む作業を行った。教育センターにて特別支援学級を担当する方々の協議会の準備手伝いや見学をさせてもらった。
- ・インターンシップを通しての感想
文化財は思っていた以上に数が多く、民俗的であるものとそうでないものの違いがあることやカモシカの死因には家屋への侵入や国道に出てしまったことなど自然では決して起こりえない原因があることといった、普段生活している中では知ることのない新しい発見があった。また、他のインターンシップ生と話す機会があり自身の体験していない業務の話聞き、これまで抽象的だった公務員の仕事を具体的に知ることができた。

【教育委員会 文化財保護課での取材の様子】



<取材先②>財務部 市町村課 県外大学生

- ・インターンシップに参加したきっかけ

公務員を専願しており、インターンシップを探していた際に地元である青森県の県庁でインターンシップの募集があったから。

- ・実際に体験した業務内容

インターンシップを通して地元の財政や市役所等の現在の課題について調べ資料を作成するという課題が課されていたため、地元である五所川原の財政課題である借金をどのように返還していくのか、どのような事業を行い削減しているのかなどを調べ、まとめる作業を行った。

- ・インターンシップを通しての感想

新たな気づきとして、手元にある資料の中で一部の数値が大きく平均から外れているからといって数値だけを見て問題であると決めつけるのではなく、データの背景には必ず原因となっている事象があり、それは必ずしもネガティブなものだけではないということを知ることができた。部署の配属に関しては希望通りであったため自身の想定から大きく外れていることはなかった。

【財務部 市町村課での取材の様子】



4 実際に青森県庁インターンシップに参加しての感想、まとめ

私が青森県庁インターンシップに参加してまず思ったのは、「もっといろいろな部署も体験してみたい！」でした。県庁には覚えるのも大変なくらい様々な部署があり、それぞれが県や県民にとって重要な役割を担っています。日程や受け入れ人数にも限界があり仕方のないことではありますが、私の中で唯一の心残りではあります。

しかし、業務体験にて他のインターンシップ生の方に取材させていただき、私が体験していない業務について詳しく話をお聞きする機会があったのは疑似的に私もその業務を体験しているような気持ちになり、とても大切な経験になったと感じています。

また、私がこのインターンシップに参加するきっかけであった公務員の仕事について具体的に知りたいという目標は達成できたと思います。やはり、実際の現場で実際の業務を体験できるというのは、どのような仕事をしているのかだけでなく、普段どのような方々がどのような雰囲気働いているのかを知ることができ、想定していた以上に公務員のリアルというものを知ることができました。

5 私から次のインターンシップ生へ

最後に、これからインターンシップに参加しようか迷っている方々への私からのメッセージとしては、まず、**少しでも迷っているなら参加するべき**ということです。

確かに、インターンシップの五日間は朝早く起きて出勤し、夜は次の日のために早めに寝るという生活になります。学生として普段生活していると皆がそうとは言いきれませんが少なからず不規則な生活を送ってしまいがちです。ただ、卒業して社会人になった時この生活リズムが通じるかといわれたら厳しいと思います。実際に私も今回インターンシップに参加して痛感しました。業務を体験できるというのもインターンシップの魅力ではありますが、こういった業務以外の生活に関しても見直す機会になるのも、また一つの魅力なのかもしれません。

次に、せっかく参加するなら**現場で働いている方に積極的にお話を聞くべき**ということです。例えば公務員になろうかどうか迷っている方であれば、実際に公務員になって良かったことや逆にこうしていればよかったということを質問したり、公務員になりたいけれど試験に不安があったりもし合格した時に配属された部署が自分に合わなかったらどうしようと不安に思っている方は、職員の方の体験談を聞いてみたりなどするといいと思います。